



ワークショップ：和釘を打つ

教員特別研究（重点目標研究）成果報告書 | 配分研究費：988千円（令和元年度）

## デザイン教育における伝統建築・伝統工芸の技術継承と協働に関する研究

### 目的・概要

本学デザイン教育において匠（技能者）の持つ伝統建築・伝統工芸の技（技能・技術）をどのように継承し、匠と協働すべきかについて実践的な研究を推進する。ワークショップを通じて、匠の技の継承「方法の研究」、匠・研究者・デザイナーを「つなぐ研究」を進め、匠の技の記録、匠との協働の可能性について研究・分析を行った。本学を拠点とする伝統建築・伝統工芸のあり方について「地域研究」を推進する。

### 期間

平成31年4月～令和2年3月

### 研究担当者

文化・芸術研究センター	講師	新妻淳子（研究代表者）
デザイン学部 デザイン学科	教授	山本一樹
文化・芸術研究センター	准教授	藤井尚子
デザイン学部 デザイン学科	講師	小田伊織

## スケジュール

随時	匠領域の教育内容・工房使用に関する検討と準備
令和元年6月5日	静岡県内伝統建築・伝統工芸の調査
令和2年2月16日	伝統建築技術ワークショップ「和釘を打つ、和釘を使う」
令和2年2月17日	特別講座「千年の釘を語る会」
令和2年2月21日～22日	工芸技術ワークショップ「シルバージュエリー制作」

## 研究成果

- 匠領域授業準備
  - 1-1 工房使用に関する検討
    - ・染色工房・木彫工房・彫金工房
  - 1-2 ワークショップ・特別講座の開催
    - ・伝統建築技術ワークショップ「和釘を打つ、和釘を使う」

講師：白鷹興光（鍛冶）、藤井恵介（東京大学名誉教授）  
 協力：武田学・村澤義登・河口倫啓・月原光泰（大工）、山崎善史（大工道具卸）  
 和釘を打つ「鍛冶」×和釘を使う「大工」×研究者×大工道具卸×デザイナー（本学教員・学生）によるワークショップと座談会「伝統建築と鍛冶」

  - ・特別講座「千年の釘を語る会」

白鷹興光（鍛冶）×釘持夏海（国際文化学科3年）  
 薬師寺復興時、鍛冶白鷹幸伯氏が挑んだ和釘制作についての文章「千年の釘にいどむ」（『小学校国語（5年生）』光村図書）を題材に、次代の興光氏と語る会

  - ・工芸技術ワークショップ（彫金）「シルバージュエリー制作」

講師：海野えり子
- 静岡県内伝統建築・伝統工芸の調査
  - ・静岡浅間神社（社殿及び修理工事現場の調査）
  - ・芹沢銈介美術館（型染め作品調査）
- 伝統建築・伝統工芸に関する研究推進
 

静岡文化芸術大学研究紀要 vol.20、2019年  
 新妻淳子「本学デザイン教育における伝統建築技術ワークショップの記録―大工技術ははじめの一步」と「木造りの技術」一」



シルバージュエリー制作



伝統建築と和釘の解説



座談会「伝統建築と鍛冶」

## 今後の研究成果の還元方法

- 匠領域における教育
  - ・日本伝統建築・基礎演習F・テキスタイル概論（2019年度開始）
  - ・匠造形演習・木造建築演習・伝統建築技術演習・木のデザイン（2020年度開始）
- 工房（2020年度始動）
  - ・染色工房・木彫工房・彫金スペース
- 公開講座の開催
- ワークショップの開催
- 伝統建築・伝統工芸の技術と文化の継承に関する研究（2020年度特別研究）の推進